

乳歯歯頸部に異物を認めた1例

阿久澤信人

アクザワ歯科医院

村上由見子, 内山盛嗣, 園田尚弘, 岩崎 浩

松本歯科大学 小児歯科学講座

A Case of a Foreign Body on the Deciduous Lateral Incisor

MAKOTO AKUZAWA

Akuzawa Dental Clinic

YUMIKO MURAKAMI, MORITSUGU UCHIYAMA, NAOHIRO SONODA and HIROSHI IWASAKI

Department of Pediatric Dentistry, Matsumoto Dental University School of Dentistry

乳幼児は生後5か月を過ぎると何でも口に持っていくようになり、誤飲・誤嚥・迷入等が生じやすく、問題が生じた場合は、まず医科への受診が一般的であるが、歯科臨床においても誤飲・誤嚥・迷入を起こす可能性のある異物に対する認識とその対応が必要とされる¹⁾。

歯科領域における異物迷入の報告では、鼻腔内に迷入した電池、歯肉溝深くに嵌入した矯正用エラスティックゴム、乳切歯部に嵌入したストロー様異物などが偶然に発見された事例が多く、発見の遅れが歯科的な問題を引き起こすことも示唆されている²⁻⁵⁾。

今回、上顎乳側切歯歯頸部にストロー様異物の嵌入を認めた1例を経験し、保護者の同意を得た上でその写真を供覧する。

症例：3歳11か月の女兒。

主訴：口腔内精査

既往歴および家族歴：特記事項なし。

口腔内所見：診査からHellman咬合発育段階はIIAで、咬合状態に異常所見は認められなかった。

上顎左側乳側切歯の歯頸部周囲には帯状に歯石沈着を呈した様相で、表面は比較的滑沢で歯牙に比べやや褐色の着色が認められた。その着色部を触知すると、乳側切歯歯頸部の帯状の着色部分に僅かな歯牙からの遊離が認められ、触診の際、僅かに疼痛を訴えた(図1-A)。

X線所見：上顎左側乳側切歯の周囲には多量の歯石沈着様を呈する像や異物を示す像は認められず、歯冠部の近遠心隣接面に齶蝕が認められた。また、上顎左側乳側切歯周囲の歯槽骨には水平的吸収が認められた(図1-B)。



A: 口腔内写真
B: X線写真
写真1: 上顎左側乳側切歯の初診時所見



写真2：摘出物所見

A：口腔内写真
B：X線写真
写真3：上顎左側乳側切歯の6か月後の所見

臨床診断：上顎左側乳側切歯 異物迷入

処置：浸麻下にて上顎左側乳側切歯の周囲物質を摘出し、齶触部にはレジン充填を施した。

摘出物所見：直径約4.0 mm、高さ約4.5 mmの円筒状で、色は透明に近い乳白色であり、ストロー片と推測された。また、円筒状物の辺縁に歯石様沈着物も認められた(図2)。

本症例はストロー片と推測された異物が上顎左側乳側切歯歯頸部に迷入し、発見の遅れが歯槽骨吸収の原因になったものと考えられた。歯槽骨吸収の原因としては、慢性的歯周組織への刺激あるいはストロー様異物のモノマーの溶出による刺激などの影響が考えられたが、歯槽骨吸収の原因の究明については摘出物の同定を含め、今後の検討課題としたい。

異物迷入の経緯を保護者に問診したところ、ストロー片と推測された異物は萌出当初から認められ、先天的なものかまたは歯石と判断し、放置していたという。また、不明確ではあるが、ストローでジュース類を飲む際には、既に上顎左側乳側切歯の異常は認められていたようであり、その他には思いあたる点はないとのことであった。さらに、近年では枕の緩衝剤として短いストロー様チューブが使用されており、使用経験を確認するも、患児の自宅では使用していないとのことであった。

このように保護者の知らない間に、乳幼児が身の回りにある異物を口腔に入れてしまい、医科的な症状も含め、発現するか、あるいは偶然に発見

されるまで放置されるケースは今後も十分あり得る。また、それらを異物と認識するためには他の疾患との鑑別や口腔領域のみではなく全身への影響¹⁾についても我々は把握しておく必要がある。さらに、保護者に対しても乳幼児期からの異物の誤飲・誤嚥・迷入やその影響について啓蒙し、安全対策を試みる必要性が示唆された。

なお本症例は6か月後に再診査を行った結果、X線所見からは歯槽骨吸収の改善が認められたものの、歯根膜腔の拡大も認められたが、自覚症状がないため、保護者同意の上で経過観察を行っている(図3)。

文 献

- 1) 山中龍宏(1998)子どもの事故と防止¹⁸⁾。小児科臨床 51:111-20。
- 2) 加納篤子, 小笠原榮希, 久保山博子, 鶴田勝久, 本川 渉(1997)口腔内および鼻腔内に異物を認めた3例。小児歯誌 35:722-7。
- 3) 柿沼さおり, 桜井史子, 荻部洋行, 荻原和彦(1999)上顎乳中切歯歯頸部にストロー状異物を認めた一症例。小児歯誌 37:411。(抄)
- 4) 上原正美, 和田真澄, 洪井尚武(1987)誤った輪ゴムの使用による上顎正中離開の矯正治療が行われた一症例。クインテッセンス 6:570-6。
- 5) 坂口也子, 丹下貴司, 松本大輔, 庄内喜久子, 前山善彦, 野呂大輔, 廣瀬光枝, 五十嵐清治(2000)異物嵌入により高度の歯槽骨吸収を来した1例。小児歯誌 38:255-60。